

## プラザ

第 39 回東京医科大学医科学フォーラム  
The 39<sup>th</sup> Medical Science Forum (MSF)大 平 達 夫<sup>1)</sup> 佐 藤 永 一<sup>2)</sup>  
Tatsuo OHIRA<sup>1)</sup>, Eiichi SATOH<sup>2)</sup>

オーガナイザー

<sup>1)</sup>東京医科大学外科学第一講座<sup>2)</sup>東京医科大学人体病理学講座

2012年9月14日(金)午後6時より東京医科大学病院教育棟5階臨床講堂にて、第39回東京医科大学医科学フォーラムが開催された。今回は、アンチエイジング遺伝子である「Klotho」をテーマにして本学からは東京医科大学 外科学第一講座 准教授の臼田実男先生に「肺癌におけるアンチエイジング遺伝子 Klotho の働き」と題してご講演いただいた。その後、東京女子医科大学 腎臓内科 臨床教授の土谷健先生から「Klotho 蛋白の本来の役割・潜在的な役割」と題して Klotho の最新の話題をご講演いただいた。

Klotho は、現テキサス大学の黒尾教授と現京都大学の鍋島教授が発見した遺伝子で、Klotho を欠損したマウスでは、早発性老化を示しており短命であることが示され、抗老化遺伝子として知られている。Klotho 欠損マウスでは短命で、肺気腫、動脈硬化、

骨粗鬆症、異所性石灰化、運動機能障害など様々な老化類似症状を示す。

臼田先生には、Klotho 遺伝子と癌の関連に着目し、肺癌と Klotho の発現に関する発表していただいた。その後、土谷教授に腎臓領域を中心に Klotho に関する知見を発表していただいた。土谷教授は、臨床系の教室の教授で日常、臨床業務に忙しい中で基礎的な研究も盛んに行っている。

Klotho は、さまざまな疾患に関与していると考えられており、本フォーラムを発端に本学で Klotho に関する研究が盛んになることを期待している次第です。フォーラムの終了後は、同窓会館2階コルネットで懇親会が行われ、土谷先生も遅くまで御参加いただき、研究に関する話題のみでなく臨床、教育などに関して意見交換を行い、大変参考になった。

(文責 大平達夫)



臼田先生



土谷先生